elegans に類似しているため，従来，これらの菌群の種の階級の分類は論議の焦点とされてきた。今回，これらの二種を再検討した結果，両種共に *C. echinulata* の異名同種として取扱うことが妥当であると結論した。

□湖北省植物研究所編著：**湖北植物誌** vol. 1, pp. 508, 1976, ¥1,900. 中国でも各省単位でフロラがではじめたようだが，とくに湖北省は日本の温帯と関連が深く，さらに第一巻はドクダミ科からクスノキ科に及ぶ系統的に古い群と裸子植物とから成るから，まことに興味深いものがある。各科各属毎に纏めてあり，それにつづいて各種を述べているが，ほぼ種毎に図を添えてあるのでわかり易い。全体としてみると，我が国の属はほとんど顔を出し，しかも種数がより多いのは，面積の広さもあろうし，フロラの豊富さもきいていよう。*Quercus*, *Polygonum* などは大きくとっているが，サバノオ属は *Dichocarpum*, ミズヒキ属は独立して *Antenoron* を使っている。葉脚が円くてはっきりしているコウライイタドリ *Reynoutria henryi* Nakai はイタドリの異名になっているのは腑に落ちないが，大勢としてはほぼ妥当であろう。続きがでるのが待遠しいといえよう。 (前川文夫)

□Robert T. Clausen 著 **Sedum of North America North of the Mexican Plateau.** 742 pp. Cornell University Press, Ithaca. 1975年。24000円。Clausen 教授の北アメリカのマンネングサ属に関する2番目の大著である。即ち *Sedum* of the Trans-Mexican Volcanic Belt (1959年) がそれで，本書は前書がカバーした地域より北方に自生，野化，栽培する種類を，前書とほぼ同じ方法で解説したモノグラフといえる。北アメリカのマンネングサ属については，North American Flora 22巻に Britton と Rose (1905年) が，一応既知の種類をまとめて以来の著作であり，北アメリカの同属植物を知るうえで大いに参考となる。数量形質については，前書と同様な統計処理が用いられている。60図におよぶ線画と，102葉の生体写真は，いずれも鮮明なものである。分布図は22葉が収められている。従来マンネングサ属の節とされることの多かったイワベンケイ類，ベンケイソウ類を亜属とする等，幾つかの新見解も発表されている。数量形質の計測を含め，記載は詳細ではあるが，子房の形態（特に基部の状態，腹側の突起の有無），花序の分岐の仕方，開花時の花弁の開出度，裂開直前の葯の色などいくつかの形質の記載がないのは，それらが種によって一定したものだけに惜しまれる。 (大場秀章)